

原 著

当院における単孔式腹腔鏡下虫垂切除術の方法と有用性の評価について

伊坂哲哉¹⁾, 鈴木喜裕¹⁾, 中山博貴¹⁾, 高田賢¹⁾,
谷和行¹⁾, 白石龍二¹⁾, 利野靖²⁾, 益田宗孝²⁾

¹⁾ 平塚共済病院 外科, ²⁾ 横浜市立大学医学部 外科治療学

要 旨: 2007年頃より単孔式腹腔鏡下手術 (Single Incision Laparoscopic Surgery: 以下 SILS) が日本で普及してきている。今回当院で行った単孔式腹腔鏡下虫垂切除術 (Single Incision Laparoscopic Surgery - Appendectomy: 以下 SILS-A) の有用性を retrospective に検討した。対象・方法: 術前に虫垂穿孔および汎発性腹膜炎が疑われなかった虫垂炎に対して, 2010年2月-12月に行った SILS-A 計28例と, 2009年1月-12月に行った開腹虫垂切除術 (Open Appendectomy: 以下 OA) 計51例について, 手術時間, 術後入院期間, 術後点滴・坐薬鎮痛剤の使用回数を比較検討した。結果: 手術時間は SILS-A は平均87.04分, OA は62.27分だった ($p=0.0026^{**}$)。術後入院期間は SILS-A は平均3.46日, OA は5.37日だった ($p=0.0069^{**}$)。術後点滴・坐薬鎮痛剤の使用回数は SILS-A は平均0.57回, OA は1.37回 ($p=0.03^{*}$) だった。結論: SILS-A は OA と比較し疼痛が少なく入院期間を短縮する術式として選択の一つとなる可能性が示唆された。

Key words: 単孔式腹腔鏡下手術 (Single-Incision Laparoscopic Surgery), 腹腔鏡下虫垂切除術 (Laparoscopic Appendectomy), 開腹虫垂切除術 (Open Appendectomy)